

欧州特許庁、人工知能「DABUS」を発明者とする特許出願を拒絶

2020年1月13日
JETRO テュッセルドルフ事務所

欧州特許庁（EPO）は、2019年12月20日、機械が発明者として指定された2つの欧州特許出願を拒絶した旨、ニュースリリースにて公表した。

本ニュースリリースによれば、両方の特許出願は、「コネクショニスト人工知能の一種」と称される「DABUS」を発明者として指定しており、出願人は、当該出願人が権利相続人となることによって発明者から欧州特許を受ける権利を取得したと述べた、としている。

また、EPOは、11月25日の非公開の口頭手続において出願人の主張を聞いた後、EP 18 275 163 及び EP 18 275 174を、発明者は機械（machine）ではなく人間（human being）でなければならぬとのEPCの要件を満たさないという理由で拒絶した、としている。

また、理由を付した決定は2020年1月になるかもしれない、としている。

— 欧州特許庁のニュースリリースは、以下参照 —

[EPO refuses DABUS patent applications designating a machine inventor](#)

(以上)